

ID No.108	
研究課題名	一般大腸癌患者の中の遺伝性要因を評価する為のシステムの構築
研究代表者	関根 章博 (京都大学・教授)
研究組織 受入教員 研究分担者	古川 洋一 (東京大学医科学研究所)
研究報告	
<p>一般大腸がんの患者から、遺伝性のファクターとなる情報を抽出する為の質問票を作成した。さらにこの質問票をweb上で回答し、遺伝性大腸がんであるリンチ症候群の患者を見つけ出すシステムを構築した。質問表に対する入力システムは、CGIおよびPERL言語を用いて作成し、入力の際に入力ミス・欠損が生じないようにプログラムで管理した。このプログラムはLinux環境下になるため、通常の質問票入力コンピュータで採用されているWindowsとGO-Global(キットASP)で両環境を繋いだ。質問票入力は、試験的に京大申請者の研究室にサーバー(Linux側)を設置し、東大医科研共同研究先からアクセスし、入力できる環境構築を実現した。またこのシステムをポータブルなサーバーに組み込み、VPN等を併用してセキュリティーを担保し、限定された施設で利用可能か検証した。実際にこのプログラムを用いて、既知の患者の家系図を用いて一般大腸がん患者の中で改訂アムステルダム基準を満たす患者、改訂ベセスダガイドラインを満たす患者を正しく同定できることを確認できた。さらに、大腸癌研究会でおこなった「遺伝性非ポリポーシス大腸癌(リンチ症候群)の登録と遺伝子解析プロジェクト」で得られたリスクファクターによる予測式をプログラムに組み込み、遺伝子変異を有する確率を表示できるように改良した。このシステムにより、一般大腸がんの中から、患者自身が改訂アムステルダム基準や改訂ベセスダガイドラインを満たすかどうかを必要な場面ですぐに調べることができ、一般診療の中でリンチ症候群を発見し、患者のフォローアップや、近親者のサーベイランスを通じて、リンチ症候群の患者・近親者に発生するがんの早期発見・早期治療に貢献するものと考えられる。</p>	